

# 令和4年度上期事業報告について

## 1. 令和4年度上期事業報告

令和4年度上期の日本経済は、新型コロナウイルス感染の第7波がピークを過ぎ、経済社会活動の正常化が進むなかで、景気が持ち直していくことが期待されています。

ただし、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れによる我が国の景気への影響や物価上昇による家計や企業への影響、供給面での制約等に十分注意が必要な状況になっています。

こうした中、本年度上期の当組合管轄の貨物取扱い実績は、2,449,763トンで、前年度上期の2,558,602トンと比較して、108,839トン減少し、前年度比95.7%の取扱いとなりました。

野積場の貨物構成では、木材の取扱いが23,540トンで、前年同期比の91.0%と減少しました。鋼材は輸出入・内貨併せて48,420トンと前年比120.9%と好調で、その他の一般貨物も輸出入・内貨併せて720,344トンの前年比109.6%とこちらも好調です。

市原地区では、内貨スクラップ・鋳滓等は171,680トン取扱い前年度比78.0%の減となり、北袖ヶ浦地区においても内貨スクラップの取扱いが減少し前年度比86.3%となりました。

完成自動車は、輸出入・国内車併せて112,308台を扱いました。内訳は輸入車が13,137台と前年度期比104.0%と好調。輸出車は0（ゼロ）で国内車は99,171台の前年度比97.3%の減となりました。

完成自動車のトータルは前年度の114,543台から2,235台減少し、前年比2%減の98.0%となりました。

上屋・テント倉庫については、68,659トンの取扱いで前年比3,639トン減の95.0%となりました。

コンテナ貨物は、実入り・空バン合計で27,916TEUを取扱い前年上期の30,688TEUから2,772TEU減少し、前年度上期比の91.0%となりました。